

科目名称	小児看護学方法論Ⅰ（症状別看護）	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期	1	15
担当教員	井ノ上眞由美	授業に関わる 実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】授業概要

小児期に特徴的な健康障害について理解し、症状・治療・処置に伴う援助方法を学ぶ。

【2】学習目標

1. 小児期の順調な経過促進と健全な成長・発達を支える援助の方法が説明できる。
2. 健康障害を持つ小児とその環境についてアセスメントできる。
3. 健康障害を持つ子どもの看護を、経過別、主要症状別に説明できる。
4. 基礎的な小児看護技術について成長・発達に応じた方法を説明できる。

【3】第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- ☒ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	入院を必要とする小児と家族の看護 フィジカルアセスメント概論	講義
2	フィジカルアセスメント各論	講義
3	検査・処置を受ける小児の看護	講義
4	小児を取り巻く環境 小児の心肺蘇生	講義
5	症状を示す小児の看護①	講義
6	症状を示す小児の看護②	講義
7	事例で考える	講義
8	筆記試験	

【5】評価方法

筆記試験（90％）課題（10％）で総合的に評価する。

【6】教科書

奈良間美保 他・「小児看護学概論 小児臨床看護総論（第14版）」・医学書院・2023年

【7】参考書

浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術，医学書院

【8】受講生へのメッセージ

子どもとその家族の看護の特徴や小児看護に関する社会制度の変遷や関連法規について学習していきます。また、症状に対する看護、検査・処置時の看護について具体的に学習していきましょう。（バイタルサイン測定時に使用する機械の取り扱いについて説明します）